



愛媛県種馬铃薯生産者が 芸南地域を視察

JA芸南地域営農経済センターは、4月17日愛媛県の種馬铃薯生産者の視察を受け入れました。生産者やJAえひめ中央の営農担当職員など8人が安芸津町を訪れ赤崎地区の圃場を見学。春作の発芽促進や秋作の高温対策について意見を交換しました。



▲圃場で発育状況を確認する視察団

JA女性部芸南地区本部総会

いろいろな「あい♡」の活動開始

JA女性部芸南地区本部は4月17日、JA安芸津支店で令和7年度総会を開き、部員やJA役職員など38人が参加しました。総会では、令和6年度の事業報告と令和7年度の事業計画などを協議し、すべて承認されました。

今年度は、「助けあい♡」「学びあい♡」「育てあい♡」を基本方針として、令和6年度に取り組んだプラスチックごみ削減のため「食器洗いスポンジ」を天然素材の「ヘチマ」に替える活動、ペットボトルキャップを集め、小さな子ども達に「ワクチン」を届ける活動を継続します。

また、新たな活動として日本の農業を守るため、地産地消、国消国産の取り組みを推進します。



▲JA女性部芸南地区本部総会

JA青壮年連盟芸南地区本部総会

JA青壮年連盟芸南地区本部は4月25日、JA川尻支店で令和7年度総会を開き、盟友やJA職員など12人が参加しました。総会では、令和6年度の事業報告と令和7年度の事業計画などを協議し、すべて承認されました。

今年度も食農教育の支援や農業体験イベント（グリーンツーリズム）の開催が決定されました。



▲令和7年度JA青壮年連盟芸南地区本部通常総会資料



▲JA青壮年連盟芸南地区本部総会



野菜

6月

馬鈴しよの病害虫防除と 収穫貯蔵の管理

生育後半となり、病害虫の発生も多くなります。

本作は低温で推移したため、遅れて発生する害虫に注意が必要です。観察・防除を徹底しましょう。

〈防除例〉

「収穫2週間前まで」

〈アブラムシ・疫病対策〉

・モベントフロアブル4,000倍液

(収穫7日前まで、使用回数3回以内)

・フオリオゴールド1,000倍液

(収穫7日前まで、使用回数3回以内)

「収穫1週間前まで」

〈ジャガイモガ・疫病対策〉

・ベネビアOD2,000倍液

(収穫7日前まで、使用回数3回以内)

・ベトファイター顆粒水和剤2,000倍液

(収穫7日前まで、使用回数4回以内)

〈ヨトウムシ類対策〉

・フェニックス顆粒水和剤2,000倍液

(収穫前日まで、使用回数2回以内)

・ディアナSC3,000倍液

(収穫前日まで、使用回数2回以内)

〈収穫〉

試し掘りをして晴天日に掘り取りをし、貯蔵については適度に風乾してジャガイモガの侵入を防ぐために、寒冷紗などで覆い保管しましょう。

玉ねぎ収穫前の防除と収穫貯蔵の管理

〈腐敗防止と貯蔵性向上〉

・ベンレート水和剤2,000倍液を

収穫前日に玉ねぎの玉球によくかか

るよう散布してください。

(総使用回数6回以内)

〈収穫〉

茎葉が70〜80%倒伏し2〜3日晴天

が続いた後に収穫します。収穫は早

ざると減収し、遅れると腐敗が増加

します。

〈乾燥〉

降雨直後に収穫すると腐敗により貯蔵性が悪くなる場合があります。晴天の続く日を見計らって抜き取り、2〜3日地干しした後に収納します。このような「地干し処理」は貯蔵性を高め、腐敗率がかなり低下します。

〈貯蔵〉

乾燥後、直射日光の差し込まない風通しの良い小屋に吊り下げて貯蔵します。

コンテナに並べて貯蔵する場合は、収穫時に葉を玉の上、8〜10cm残して切り落とします。風通しに注意し、薄く広げて風乾貯蔵します。天候が悪い場合は扇風機などで強制乾燥します。

その他野菜の管理

主に5月に植え付け、収穫をはじめた野菜が多いと思いますが、これからの長雨により病気の発生が多くなる時期になります。キュウリなどは6月に追加で種まきをすることで、梅雨明けに収穫がはじまり、秋口まで切れ目のない出荷をめざすことができます。圃場に余裕があれば他の夏野菜も種子カタログなどで追加まき品種を検討し、6月中に追加種まき・定植をしましょう。

〈生産工程管理日誌は必ず提出しましょう〉

生産工程管理日誌は次期作の栽培計画に利用できるほか、事故から生産者・消費者を守る大事な記録です。農薬使用は細心の注意を払い、正確な記入・提出をお願いします。

野菜問 営農経済課

TEL 0846-4513360

担当 久保勝義

2025年6月 苗販売情報



128穴セルトレイ



(商品例) キャベツ苗

J A安芸津アグリセンターでは、直売所などJ A出荷者の支援として、128穴セルトレイでの野菜苗の生産・供給を行なっています。

数に限りがありますので、お早目にお問い合わせ頂ぎぜひご利用ください。

今月の供給品目

品目名	品種名	販売予定	収穫予定
キャベツ	初秋	6月中旬～	8月中旬～

※在庫・価格等詳細については随時お問い合わせください。
※特注品についても相談の上、対応致します。

果樹

7月

7月は品質向上対策として、樹勢維持等の基本管理の徹底が必要となります。また、中晩柑の大玉生産・びわの収穫後の管理が重点管理項目となります。

かんきつ

●摘果の徹底

しらぬひ・はるみ等中晩柑類の大玉生産には、早めの摘果が必要となります。樹冠上部3分の1摘果を行ない、夏芽の発生を促しましょう。また早い時期にもう一度見回り、7月中には仕上げ摘果を行ないましょう。温州ミカン は基本的に着果負担をかけ、糖度の高い果実生産を行なうため、9月の後期摘果を主体としますが、春芽の少ない着果過多の樹については、荒もぎ摘果を行ないましょう。

●病害虫防除

7月中旬～下旬は黒点病・サビダニ、そしてカミキリムシの重点防除時期です。中でも黒点病は毎年、発生が多い傾向にあります。枯枝が感染源となり降雨により果実に黒い点々がつくため、目に付いた枯枝は必ず除去するようにしましょう。使用する薬剤は、サビダニ対策としてファインセーフフロアブル（劇）4,000倍液、黒点病対策としてジマンダイセン水和剤600倍液（または、ペンコゼブ水和剤600倍液）、ミ

カンバエ（成虫）対策としてコルト顆粒水和剤3,000倍液を散布しましょう。また、前記薬剤に元氣一番1,000倍液も混用し、樹勢を維持しましょう。暑い時期の作業となりますので、体調に十分注意して防除作業を進めてください。

また7月定期防除の注意点として、降雨量に関係なく6月の定期防除から1カ月以内の防除を心掛け、農薬の付着性と耐雨性を高める固着剤アビオンE1,000倍液を混用しましょう。

●フィガロン乳剤の散布で品質向上！

7月下旬は、熟期促進・品質向上を目的とした1回目の散布時期となります。樹勢の良い樹に、フィガロン乳剤3,000倍液を散布しましょう。ただ、干ばつ時や樹勢低下樹には使用できないので、注意して散布してください。

●マルチシートの被覆で、食味の良いみかん作り

マルチシートは降雨の浸透を防ぎ、土壌中の水分を蒸散させる白色マルチ用のシートです。地温の上昇を防ぎ、緩やかな土壌水分ストレスをかけることで、増糖効果と反射光効果により着色促進を図ります。梅雨明け前に土壌水分のある状態で被覆しましょう。マルチシートには、タイベックシートや美味シート等があります。

びわ

収穫後の管理が来年産の作柄及び品質に大きく影響します。土壌管理と病害虫防除（カミキリムシ及びがんしゅ病対策）を必ず実施しましょう。

●収穫直後、夏肥を施用しましょう。

商品名：園芸用有機化成
施用量：60 kg / 10 a
（特A805号）

●梅雨明けまでに根の保護のため、堆肥を施用しましょう。

商品名：豊穰・こだわり健肥等
施用量：（1～2 t / 10 a）

●収穫後に必ずせん定を実施しましょう。

●病害虫防除を実施しましょう。

収穫後にカミキリムシ・アブラムシ類対策としてモスピラン顆粒水溶剤（劇）2,000倍液、がんしゅ病対策としてコサイド3000 1,000倍液を混用して散布しましょう。また尿素600倍液も樹勢維持のために混用しましょう。

いちじく

カミキリムシ類・アイノキクイムシ類対策として、ガットサイドS原液を株元中心に塗布しましょう。塗布する代わりにアイノキクイムシ類対策として、1.5倍液を主幹部に散布すること

も可能です。

●芽かきは7月上旬には完了させましょう。

（目安：結果枝4本 / 1 m）

●かん水

土壌の過乾燥に注意し、無降雨が5～7日程度続くようであれば、かん水を実施しましょう。敷き藁やココナッツピート等を施用すると、かん水の頻度が減らせ省力化に繋がります。

●農薬使用の注意点

- ・使用者自身の安全を確保するため、農薬の製品ラベルに従った保護具を着用しましょう。
- ・周辺住民・周辺環境への安全を確保するため、周辺住民や農家に配慮し、掲示版等で農薬の使用を事前に伝え、農薬が飛散してかからないように注意しましょう。
- ・対象作物の安全を確保するため、農薬の製品ラベルに従い、決められた使用量や用法を守りましょう。
- ・消費者の安全を確保するため、農薬の製品ラベルに従い、決められた作物種、使用量、使用時期、使用回数等を守れば残留量が基準値を超えることはありません。

果樹問 安芸津アグリセンター

TEL 0846-4510488

担当 JA広島果実連（株）

駐在技術員 栗木 富生

あなたとわたしの
ふれあい市



自然に恵まれ「人と人との豊かな生活」がそこにある

JAひろしま ふれあい市安芸津店

東広島市安芸津町風早647番地 8

ふれあい市は、『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』『地域の活性化』を基本目標とし、地産地消に取り組んでいます。



梅雨入りして雨の日の外出はおっくうになりがちですが、ふれあい市では初夏の訪れを告げるびわや新じゃがなど新鮮な野菜をとりそろえて皆さまのご来店をお待ちしております。

じゃがいも



スイカ



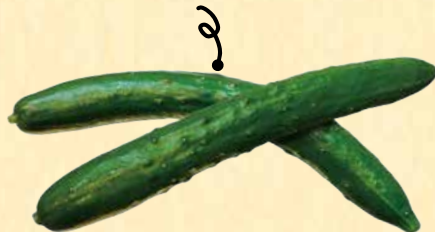
びわ



うめ



キュウリ



ミニトマト



なすび



『旬果旬菜ふれあい祭り』開催!

～赤馬铃薯やびわを店頭販売～

日時 6月14日(土)・15日(日) 9:00～15:00

場所 ふれあい市安芸津店
(東広島市安芸津町風早647-8)



出荷会員募集中

自慢の農産物を出荷してみませんか?
興味のある方は下記の連絡先までお問い合わせください。

☎0846-46-1166

ふれあい市安芸津店 担当: 松本まで



※写真はイメージです。

臨時休業のお知らせ

仮決算にかかる棚卸のため、購買事業を行なう次の店舗を休業させていただきます。

6月30日(月) 安芸津アグリセンター・安浦店・川尻店
ふれあい市は通常通り営業いたします。

ご不便をおかけしますがご理解・ご協力をお願いいたします。